

林野庁 補助事業 途上国森林再生技術普及事業
「途上国における森林再生技術」普及ワークショップ
3月20日（火）@文京シビックホール

事業概要とワークショップ開催趣旨

国際緑化推進センター 専務理事
堀 正彦



□背景

- IPCCの第5次評価報告では、気候変動緩和策の一つとして植林の可能性について記載
- しかし、気候や土壌条件に恵まれた土地は農地として既に利用
- 一方で、以下のような荒廃地は未利用のまま大規模に残されている
 - 途上国地域の農・牧畜等によって著しい土壌劣化が進行した荒廃放棄地
 - 降水の少なさのために植生回復が難しい乾燥・半乾燥地
 - 過剰な水分等が問題となる湿地林やマングローブ域
- 今後、企業の産業植林やNGO活動において、荒廃地植林は重要課題

□事業実施項目

- 従来に関連技術を整理・体系化し、データベースを作成
- 新技術を探索・抽出し、実証試験を通して確立する
 - Mスターコンテナ長根苗の育苗試験 @ミャンマー中央乾燥地 (JIFPRO)
 - 保育ブロック工法を用いた緑化 @ウズベキスタン乾燥地 (応用地質)
 - 熱帯荒廃湿地の湛水造林 @タイ南部の湿地帯 (東京大学)
- 国内外で事業の説明会を行う
- 国内で成果報告を兼ねた普及セミナーを開催

今年度検討した荒廃地の種類

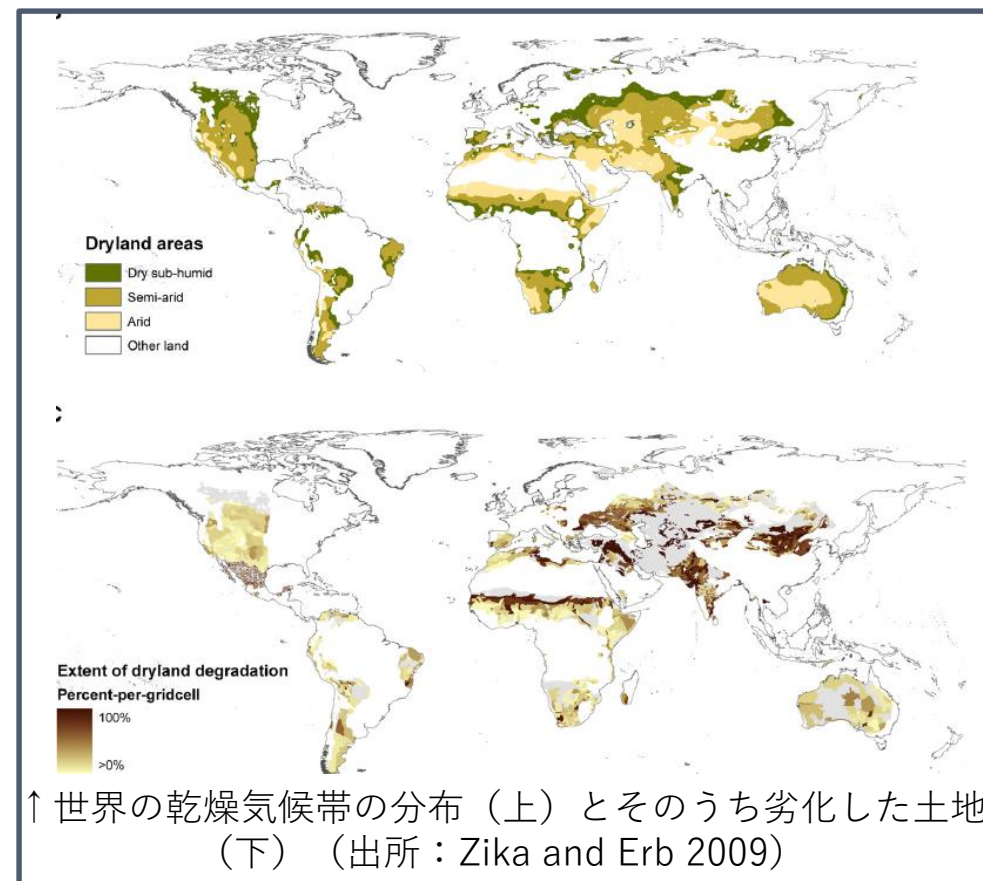
4

□ 乾燥地

- 乾燥気候帯下に分布する劣化・荒廃地の面積は、 $11,803 \times 10^5 \text{ha}$
- 森林再生のポテンシャルは高い
- 半乾燥と乾燥半湿潤気候下に、潜在的に樹木が生育可能な乾燥林地帯が存在
 - 自然状態での回復・再生は困難

□ 泥炭地

- 巨大な炭素貯蔵庫
- オイルパーム園等の開発に伴い排出源に
- 再湛水と造林により吸収源にできないか？



ワークショップの内容

5

- 本事象で作成中のデータベース「森林再生テクニカルノート」の紹介

- 基調講演
 - 現場のニーズに合わせた技術開発
 - 大沼康洋氏（株国際耕種）
 - 民間技術を活用した森林再生の先進事例
 - 清水谷卓氏（株多機能フィルター）

- 本事業で行った実証試験の報告
 - 長根苗@ミャンマー（JIFPRO）
 - 保育ブロック@ウズベキスタン（応用地質）
 - 湛水処理@タイ（東京大学）

- 情報・名刺交換会

参加していただいた方へ

- 有望と思われる技術の情報の提供
- 目的を共有する方々との交流
- 荒廃地の緑化などを実際に進めるための参考
- ビジネスパートナーとの出会い

JIFPROにとって

- 興味を持っていただいた方と、交流の範囲を拡大
- これにより有望な技術情報が得られる
- 其れにより、データベースの拡充
- その結果、より良い情報を提供

・ 地域住民の要望で植林したいけど、
荒廃地で制限要因が多く、通常の植林では失敗

・ 自社の技術（製品・特許）で海外進出したい！
・ 途上国の森林分野でどんなマーケットやニーズがあるのだろうか？

